

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

中103 町田市立町田第三中学校

<b>学力調査等の状況</b>
全国及び東京都と本校を比較すると、国数英全体的に本校生徒は平均正答率が低くなっている。問題の形式では記述式の問題に苦手意識を感じている生徒が多く感じられる。図などが少なく、より思考力が問われそうな問題では無回答率も多い。また、国語では「漢字」、数学では、「数と式」といった基本的な領域の習熟が不十分な生徒も一定数見られる。また、英語「話すこと」全5問で正答なしが78%であった。

<b>見えてきた課題</b>
上記の通り、国語・数学・英語のそれぞれにおいて記述式問題への正答率が低いため、日々の授業の中で思考力の向上に繋がる活動や、自分の意見を言ったり書いたりして表現する活動をより一層取り入れていくことが必要と感じる。また、英語「話すこと」の結果から、実用的な英語の習得にも課題がみられる。

<b>授業をデザインする8つの取組について</b>	
<b>ICT機器の活用</b>	校内研修会でICT機器の活用について話し合う機会を設け、各教科から様々なアイデアを持ち寄り、全校で取り組みを進めていく。
<b>見通しをもたせる導入</b>	全ての生徒が学習内容を把握してから落ち着いて授業に参加できるよう、学習の流れやめあてを明示することを徹底する。
<b>振り返りの設定</b>	学習した内容をまとめる時間を確保する。内容の定着について自己評価させることで、次時の授業に役立てる。

<b>各教科における課題を改善するための指導の重点</b>				
	<b>年度当初に設定した重点</b>	<b>第1学年</b>	<b>第2学年</b>	<b>第3学年</b>
<b>国語科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインを意識し、生徒の学習環境を整え、理解度に応じた助言や指導を行う。</li> <li>○漢字の読み・書きの基礎的な学力の定着を図る。</li> <li>○授業の中でICTを活用した話し合いの時間を積極的にとり、協同的探究学習の充実を図る。</li> <li>○文章表現力定着のために語彙力や構成力を身に付けるための指導を行い、詩や短歌の創作やスピーチなどに生かす。</li> <li>○テスト期間を中心に補習を行い、基礎内容を中心とした学習支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的に漢字の学習時間を設け、基礎学力を定着させる。</li> <li>○授業の流れを提示し、見通しを立たせるなど、授業をUD化する。</li> <li>○ICT機器を授業のツールとして取り入れ、話し合い活動の活性化を図る。</li> <li>○詩や短歌の創作により、文章表現力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎授業の冒頭に漢字学習時間を設け、基礎学力を定着させる。</li> <li>○授業の流れを提示し、見通しを立たせるなど、授業をUD化する。</li> <li>○テスト前に補習を実施し、学習支援を行う。</li> <li>○詩や短歌の創作により、文章表現力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的に漢字の学習時間を設け、基礎学力を定着させる。</li> <li>○授業の流れを提示し、見通しを立たせるなど、授業のUD化する。</li> <li>○詩や短歌の創作により、文章表現力の定着を図る。</li> <li>○授業後の振り返りを行うことで、学習内容の定着を図る。</li> </ul>
<b>社会科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べ学習や発表学習のための資料として、前年の生徒の良い作品を活用し、見通しを持たせるように準備する。</li> <li>○基礎的な知識を定着させるような小テストを実施する。</li> <li>○アクティブラーニング(ディベート、グループ活動や課題研究等、生徒主体の授業)の精度を高め、課題設定を生徒の実態に合わせる。</li> <li>○授業と定期考査の整合性を高める。</li> <li>○ユニバーサルデザインの手法を導入し、授業に活用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎授業でのスライド活用、クロームブックでの調査活動を実施していく。</li> <li>○授業初めに目標と流れの提示を徹底する。発問を工夫する。</li> <li>○定期的に、授業初めに小テストを実施し、既習内容の振り返りを行う。また再テストを行うことで、知識の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決学習において、クロームブックの活用を進める。</li> <li>○授業初めに目標と流れの提示を徹底する。</li> <li>○小テストやレポート等を定期的に行い、振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業初めに目標と流れの提示を徹底する。チャレンジカードを用いて、単元ごとに目標と授業内容を事前に提示することで、学習の流れをつかめるようにする。</li> <li>○毎授業での自己評価と学習内容の記録をさせることで、学習内容の振り返りを行う。</li> </ul>
<b>数学科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プリントや問題集を利用し、繰り返し練習させることによって、基礎基本の定着を図る。</li> <li>○授業における教え合いを推奨することによって、クラス全体の学力向上を目指す。</li> <li>○習熟度別少人数授業の展開により、個々の学力に応じた指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間の宿題プリントやテスト前の問題集、navimaを活用した活動を継続し、基礎学力の定着を図る。</li> <li>○授業内や補習の時間に生徒同士で教えあう場を設けさせる。</li> <li>○確認テストや小テストを実施し、理解度の低い生徒を対象に補習教室を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間の宿題プリントやテスト前の問題集、navimaを活用した活動を継続し、基礎学力の定着を図る。</li> <li>○授業内や補習の時間に生徒同士で教えあう場を設けさせる。</li> <li>○確認テストや小テストを実施し、理解度の低い生徒を対象に補習教室を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間の宿題プリントやテスト前の問題集、navimaを活用した活動を継続し、基礎学力の定着を図る。</li> <li>○授業内や補習の時間に生徒同士で教えあう場を設けさせる。</li> <li>○確認テストや小テストを実施し、理解度の低い生徒を対象に補習教室を実施する。</li> </ul>
<b>理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が自発的に行動できるように認める指導を継続し、チャイム着席の徹底と忘れ物をしないようなはたらきかけを行い、規律の確立をする。</li> <li>○本時のねらいを明示し、丁寧な説明ときめ細かな生徒観察により評価の一体化をはかる。</li> <li>○実験観察やICT教材を活用した授業構成による学習支援を増やし、生徒の興味・関</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○navimaやQubinaを活用して復習機会を増やし、基礎基本の定着を図る。</li> <li>○本時のねらいを明示し、丁寧な説明ときめ細かな生徒観察により評価の一体化をはかる。</li> <li>○実験観察やICT教材を活用した授業構成による学習支援を増やし、生徒の興味・関</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○チャイム着席の徹底と安全な実験環境を整え、授業規律の確立をする。</li> <li>○ねらいの明示、振り返りの時間をとり、指導と評価の一体化をはかる。ICTを利用した小テストや補習などを実施して基礎基本を定着させる。</li> <li>○実験観察やICT教材を活用した授業構成による学習支援を増やし、生徒の興味・関</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○navimaやQubinaを活用して復習機会を増やし、基礎基本の定着を図る。</li> <li>○本時のねらいを明示し、丁寧な説明ときめ細かな生徒観察により評価の一体化をはかる。</li> <li>○実験観察やICT教材を活用した授業構成による学習支援を増やし、生徒の興味・関</li> </ul>

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

科	<p>ICT機器やタブレット端末などを利用して理解を促す。                  ○実験観察に基づいた授業構成を増やし、ICT教材を利用する場面を増やして視覚的に理解させて興味関心を向上させる。</p>	<p>ICT機器やタブレット端末などを利用して理解を促す。                  ○実験観察に基づいた授業構成を増やし、ICT教材を利用する場面を増やして視覚的に理解させて興味関心を向上させる。</p>	<p>ICT機器やタブレット端末などを利用して理解を促す。                  ○実験観察に基づいた授業構成を増やし、ICT教材を利用する場面を増やして視覚的に理解させて興味関心を向上させる。</p>	<p>ICT機器やタブレット端末などを利用して理解を促す。                  ○実験観察に基づいた授業構成を増やし、ICT教材を利用する場面を増やして視覚的に理解させて興味関心を向上させる。</p>
外国語科	<p>○授業規律の定着をはかり、主体的に学習に取り組む環境を整える。                  ○英文法や単語の定着をはかり、基礎学力が身につくようにしていく。                  ○授業で身につけた基礎学力を、実際の場面で活用し、使えるようにしていく。</p>	<p>○授業規律を定着させながら授業を展開することを継続し、小テスト等を定期的実施しながらICT機器を効率良く活用し基礎基本の定着をはかる。                  ○生徒が授業の内容について見通しをもって取り組めるよう、流れやねらいを明示する。また、授業の最後にねらいに基づいた振り返りの時間を設ける。</p>	<p>○毎時間の授業の流れやねらいを明示して授業を展開する。                  ○英文法や単語の定着を図るため、定期的に小テスト等を行う。授業で身につけた基礎学力を実際の場面で活用する(スピーキング、ライティング等)機会を多く取るように心掛ける。                  ○ICTを活用してその日に学習した内容の振り返りを行う。</p>	<p>○調べ学習や復習を行う際にICT機器を有効に活用して授業を展開する。また、記述問題に対して苦手意識を感じている生徒が多いため、英語でも自分の意見を書いたり発表したりする機会を多く取るように心掛ける。                  ○授業の導入時に学習内容を明示するとともに、流れについて見通しをもたせる。また、まとめではねらいに基づいた振り返りの時間を設ける。</p>

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
音楽科	<p>○3年ぶりとなる市民ホールでの合唱コンクールで、会場に美しく響く合唱指導と、生徒自身が感動を味わうことのできる行事との取り組みを、教科として連携する。                  ○アルトリコーダーによる器楽指導の時間確保と、内容の充実を図る。」                  ○ICTや視覚教材を活用した鑑賞授業の充実を図る。</p>	<p>○授業の目標や活動の流れを明示し、見通しをもたせる工夫をする。                  ○ICT機器を活用し、リコーダーの運指を提示したり、様々な演奏を紹介したりして、美しい音色のイメージをもたせる。                  ○パートリーダーを中心としたミーティングにより、時間の中での振り返りを行う。</p>	<p>○授業の目標や活動の流れを明示し、見通しをもたせる工夫をする。                  ○ICT機器を活用し、リコーダーの運指を提示したり、様々な演奏を紹介したりして、美しい音色のイメージをもたせる。                  ○パートリーダーを中心としたミーティングにより、時間の中での振り返りを行う。</p>	<p>○授業の目標や活動の流れを明示し、見通しをもたせる工夫をする。                  ○ICT機器を活用し、リコーダーの運指を提示したり、様々な演奏を紹介し、美しい音色のイメージをもたせる。                  ○パートリーダーを中心としたミーティングや、楽譜ノートの記入により、授業内容をより浸透させる振り返りを行う。</p>
美術科	<p>○個別最適化の実現のために、制作ツールの幅をひろげる。                  ○コンセプトシートの作成や鑑賞カードを用いて、美術に関する興味・関心を深めるとともに、表現力・発想力の向上を目指す。                  ○ICT機器を使った取り組みを積極的に授業に取り入れ、学習意欲の向上を目指す。</p>	<p>○活動の目標や流れをわかりやすく提示し、見通しをもった制作活動ができるような環境づくりを行う。                  ○単元毎にアンケートを実施し、自身のよさや課題を再確認させる。また、そのアンケートをもとに次単元の目標や制作方法を設定していく。                  ○canva、google work space、google artなどのデジタルツールを活用し、生徒の優位に合った学習方法を画一していく。</p>	<p>○活動の目標や流れをわかりやすく提示し、見通しをもった制作活動ができるような環境づくりを行う。                  ○単元毎にアンケートを実施し、自身のよさや課題を再確認させる。また、そのアンケートをもとに次単元の目標や制作方法を設定していく。                  ○canva、google work space、google artなどのデジタルツールを活用し、生徒の優位に合った学習方法を画一していく。</p>	<p>○活動の目標や流れをわかりやすく提示し、見通しをもった制作活動ができるような環境づくりを行う。                  ○単元毎にアンケートを実施し、自身のよさや課題を再確認させる。また、そのアンケートをもとに次単元の目標や制作方法を設定していく。                  ○canva、google work space、google artなどのデジタルツールを活用し、生徒の優位に合った学習方法を画一していく。</p>
保健体育科	<p>○確立されてきた学習規律をさらに定着させ、主体的に取り組めるようにする。                  ○生徒同士でアドバイスをし合う授業体系を、さらに発展させる。                  ○種目の特性を活かし、補強運動・補助運動を入れながら、個人の基礎体力の向上を目指していく。                  ○資料や教材にUD化を取り入れ、生徒の活動意識を高める。ホワイトボード、ワークシートの活用もさらに工夫していく。</p>	<p>○ホワイトボードを活用し、本時のねらいや流れを明確にし、生徒自身が見通しをもった授業を展開させる。                  ○視覚支援としてのICT活用により、互いに教え合いながら基本技能を習得する力を身に付ける。                  ○基礎体力の向上をねらいとした授業を展開する。                  ○個人カードを毎時、記入させ、授業の振り返りや次回の目標を考えるようにして、生徒自身が見通しをもって授業を進められるように促していく。                  ○オリンピック・パラリンピックについて、興味関心が高まるように単元毎に意図的・計画的に話題に触れる。</p>	<p>○ホワイトボードを活用し、本時のねらいや流れを明確にし、生徒自身が見通しをもった授業を展開させる。                  ○視覚支援としてのICT活用により、互いに教え合いながら基本技能を習得する力を身に付ける。                  ○基礎体力の向上をねらいとした授業を展開する。                  ○個人カードを毎時、記入させ、授業の振り返りや次回の目標を考えるようにして、生徒自身が見通しをもって授業を進められるように促していく。                  ○オリンピック・パラリンピックについて、興味関心が高まるように単元毎に意図的・計画的に話題に触れる。</p>	<p>○ホワイトボードを活用し、本時のねらいや流れを明確にし、生徒自身が見通しをもった授業を展開させる。                  ○視覚支援としてのICT活用により、互いに教え合いながら基本技能を習得する力を身に付ける。                  ○基礎体力の向上をねらいとした授業を展開する。                  ○個人カードを毎時、記入させ、授業の振り返りや次回の目標を考えるようにして、生徒自身が見通しをもって授業を進められるように促していく。                  ○オリンピック・パラリンピックについて、興味関心が高まるように単元毎に意図的・計画的に話題に触れる。</p>
技術・家庭	<p>技術                  ○復習時において必ずノートを見返し、基礎基本の定着を図る。                  ○生活との関連をより深め、生徒が主体的に学ぶことができるよう、実習や視覚的な教材を活用していく。                  家庭                  ○総合ノートやプリントを利用し、振り返り学習をすることにより基</p>	<p>技術                  ○学期はじめからのワークシートをいつでもみられる状態で授業を展開する。                  ○授業用アプリだけではなくオフィスアプリを積極的に活用する。                  家庭                  ○毎時間授業の振り返りを行い、学習内容の定着を図り、次</p>	<p>技術                  ○第一学年において学習した内容が使える時にはワークシートでふりかえられるよう状態で授業を展開する。                  ○オフィスアプリを積極的に活用する。                  家庭                  ○実技(東京防災等)の手順や授業の流れがわかるように、ICT機器を活用する</p>	<p>技術                  ○進路を見据えてグーグルオフィスアプリの使用時において、進路先で使用するであろう他社製オフィスに自然に移行できるよう授業を展開する。                  家庭                  ○視覚支援としての製作手順や情報共有としての話し合いにICTを積極的に活用する</p>

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

科	<p>基礎基本の定着を図る。 ○生活との関連をより深め、生徒が主体的に学ぶことができるよう、実習や視覚的な教材を活用していく。</p>	<p>時間への見直しをもたせる。 ○単元毎の学びを日常生活に生かせるように既習事項の定着をはかる。</p>	<p>○単元毎の学びを日常生活に生かせるように既習事項の定着をはかる。</p>	<p>○単元毎の学びを日常生活に生かせるように既習事項の定着をはかる。</p>
総合的な学習の時間	<p>体験的な活動や問題解決的な活動、コミュニケーション活動を通して、探究的な学習の充実を図り、自ら主体的に学び・考え・判断し、責任をもって行動できる生徒を育成する。また、自国の伝統・文化の価値を理解し、誇りをもって交流・発信できる資質・能力を養う。さらに、社会教育施設・人材などの教育資源の活用を一層推進する。3年間を見通した学習活動を計画し、社会生活の中で総合的に活用できる学習の充実を図る。</p>	<p>クロムブックを使用して、体験的・問題解決的・探究的な学習の充実を図り、自ら主体的に学ぶ生徒を育成する。また、『身近な人の職業調べ』を通して職業についてより具体的な理解を深め、自らの進路について主体的・探究的な態度を養う。更に、3年次の進路指導に向けて段階的にキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>クロムブックを使用して、体験的・問題解決的・探究的な学習の充実を図り、自ら主体的に学ぶ生徒を育成する。また、『職業人講話』を通して職業についてより具体的な理解を深め、自らの進路について主体的・探究的な態度を養う。更に、3年次の進路指導に向けて段階的にキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>修学旅行の事前学習でクロムブックを活用した取組の充実を図る。体験的・問題解決的な活動では、自ら主体的に学び・考え・判断し、責任をもって行動できるようにすると同時に、自国の伝統・文化の価値を理解する。また、自らの進路について、見直しをもたせ、主体的、探究的に学習する態度を身に付けさせ、社会生活の中で総合的に活用できる学習の充実を図る。</p>
特別の教科 道徳	<p>学校の教育活動のあらゆる機会を通して、全教職員の協力の下に道徳的心情や規範意識を高め、実践力を養い、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む、人権尊重・生命尊重教育を推進する。評価の実践に当たっては、道徳教育推進教師を中心に生徒の良い点や進歩の状況を積極的に認め、学習したことの意義や価値を実感できるよう計画する。</p>	<p>学活や学年集会などの教育活動のあらゆる機会を通して、道徳的心情や規範意識を高め、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む。道徳の授業では生徒の良い点や進歩の状況を積極的に認め、学習したことの意義や価値を実感できるよう各教員が意識して授業に取り組む。</p>	<p>学活や学年集会などの教育活動のあらゆる機会を通して、道徳的心情や規範意識を高め、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む。道徳の授業では生徒の良い点や進歩の状況を積極的に認め、学習したことの意義や価値を実感できるよう各教員が意識して授業に取り組む。</p>	<p>学活や学年集会などの教育活動のあらゆる機会を通して、道徳的心情や規範意識を高め、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む。生徒の良い面や成長した状況を積極的に認め、学習したことの意義や価値を実感できるよう各教員が意識して授業に取り組む。</p>